

令和5年6月13日
東京都薬用植物園
薬草教室

牧野富太郎の生涯

練馬区立牧野記念庭園学芸員
牧野由美子

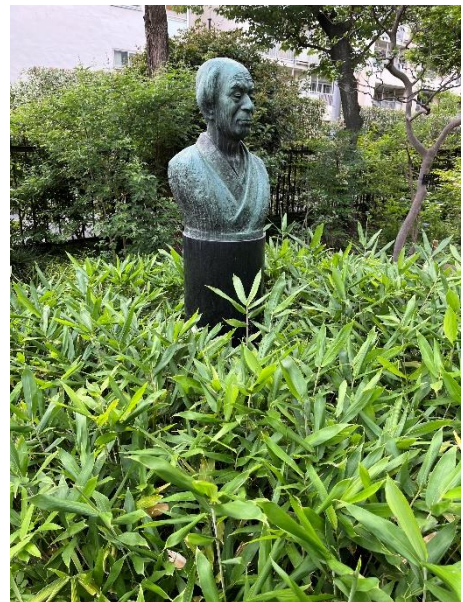
- 1) 牧野記念庭園とは
- 2) 牧野富太郎の生涯①幼年期
ー探求心を育んだ佐川での暮らしー
- 3) 牧野富太郎の生涯②青年期
ー日本の植物相を明らかにしたいー
- 4) 牧野富太郎の生涯③壮年期
ー植物好きのタネを蒔くー
- 5) 牧野富太郎の生涯④大泉での生活 家族とともに
ーいつまでも生きて仕事にいそしまん また生まれ来ぬこの世なりせばー

牧野富太郎 (1862-1957)

文久2年(1862年)4月24日に高知の佐川村に生まれる。
日本の植物分類学の礎を築いた一人。

生涯に発見・命名した植物は約1,500種類、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼる。

自身の研究の集大成となった「牧野日本植物図鑑」は初版から80年経った現在も改訂を重ね読み続けられている。



牧野記念庭園にある、スエコザサに囲まれた牧野富太郎の胸像

植物採集(観察)行進曲

(曲: 牧野記念庭園バージョン)

作曲 平石 担
作詞 常谷幸雄 1番
牧野富太郎 2,3番

1. 根堀片手に胴乱(どうらん)下げて 今日楽しい採集(観察)よ
採った千種(ちぐさ)の優しい花も やがて知識の実を結ぶ
2. 多き草木を原料(もとで)に使い 産業工業 盛んに起こし
民の暮らしをいっそう良くし 国の富をも殖(ふや)しましょう
3. 草木可愛いの 心を広め 愛し合いましょ我ら同志
思い遣りさえこの世にあれば 世界や平和で万々歳

※今日歌い易いように「採集」を「観察」に置き換えました。
※植物研究雑誌第八巻第六号には5番まで掲載され、上記の2. 3番が
4. 5番にあたります。

略年譜

- 文久2 (1862) 年 4月 24日 土佐国高岡郡佐川村(現佐川町)に生まれる
- 明治17 (1884) 年 上京し、東京大学理学部植物学教室へ出入りする
- 明治20 (1887) 年 友人と「植物学雑誌」創刊
- 明治21 (1888) 年 自ら石版印刷した「日本植物志図篇」創刊
- 明治22 (1889) 年 日本で初めてヤマトグサに学名をつけて発表する
- 明治26 (1893) 年 帝国大学理科大学助手となる
- 明治33 (1900) 年 「大日本植物志」第一巻第一集発行
- 明治42 (1909) 年 「横浜植物会」創立、指導にあたる
- 明治44 (1911) 年 「東京植物同好会」創立、会長となる
- 明治45 (1912) 年 東京帝国大学理科大学講師となる
- 大正5 (1916) 年 「植物研究雑誌」を自費創刊
- 大正15 (1926) 年 東京府北豊島郡大泉村上土支田 557 に居を構える
(現在の練馬区立牧野記念庭園)
- 昭和2 (1927) 年 理学博士の学位を受ける
- 昭和3 (1928) 年 スエコザサを命名
- 昭和12 (1937) 年 朝日文化賞を受ける
- 昭和14 (1939) 年 東京帝国大学理学部講師を勤続 47 年で辞任
- 昭和15 (1940) 年 「牧野日本植物図鑑」発行
- 昭和26 (1951) 年 第一回文化功労者となる
- 昭和28 (1953) 年 東京都名誉都民となる
- 昭和32 (1957) 年 1月 18日 満 94 歳 永眠
没後従三位勲二等旭日重光章および文化勲章が授与される